

苫小牧市長 岩倉 博文 様

## 米軍機の訓練移転の中止を求める要請書

米軍戦闘機の訓練移転反対苫小牧実行委員会

委員長 横山 傑

【印省略】

貴職が日頃地域住民の安全と福祉の増進、地域経済の発展をめざして取り組んでいることに敬意を表します。さて、北海道防衛局は4月2日と13日の二度にわたり、9回目となる在日米軍再編に伴う航空自衛隊と米軍による共同訓練を今月23～27日の5日間、航空自衛隊千歳基地で実施することを明らかにしました。米側から訓練に参加するのは青森県三沢基地所属の第35戦闘航空団、F16戦闘機6機程度と米兵約100人程度、航空自衛隊からは千歳基地所属の第2航空団F15戦闘機4機程度が参加するといえます。

米空軍三沢基地のF16戦闘機は2月20日、離陸直後エンジンから出火し、近くの小川原湖にタンク2本を投棄した後、同基地に引き返しています。湖では約10隻の漁船がシジミ漁の最中でタンクは漁船から200～400mの地点に落下し、一歩間違えば大惨事になる状況でした。地元からは原因が解明されるまでは飛行させないように要請されましたが、いとも簡単に飛行再開がなされている状況です。これまでも米軍機の事故は枚挙にいとまがなく、日本の空とは思えない状況が続いています。

昨年8月10日から26日まで、陸上自衛隊と米海兵隊による日米共同訓練が米軍三沢基地を拠点に北海道大演習場で行われた際、オスプレイ6機が飛行し苫小牧上空でも飛行が目撃されました。オスプレイは一昨年12月、名護市海岸で墜落大破し、昨年8月にはオーストラリア沖でも墜落している特別に危険な機種といわなければなりません。オスプレイの苫小牧市上空の飛行は絶対許されません。

防衛省では陸上自衛隊のイラク派遣中の日報について、1年前には陸自でその存在を確認しながら報告されていなかったことが明らかになりました。自衛隊のイラク派兵は、「人道復興支援」などを口実に強行された戦地派兵でした。自衛隊の活動は「非戦闘地域」に限るとというのが建前でしたが、陸自の宿営地にはロケット弾などによる攻撃が23発に及び、「10個近くの棺を準備」しての派兵だったことが明らかになっています。まさに、『非戦闘地域』とはウソで、派遣ありきだったのではないかと疑いが濃厚になってきています。

このような情勢のなか、9回目となる在日米軍再編に伴う航空自衛隊と米軍機による共同戦闘訓練が実施されるのです。以上のことから、沖縄の軽減負担を名目に、訓練移転を受け入れることはこれまでも増して許されないと考えます。貴職に対し下記の項目を質問しますので4月23日までにご回答下さるよう要請します。

### 記

1. 米軍戦闘機の9回目となる苫小牧上空を通過しての訓練は受け入れないこと。特に、エンジンから出火原因が究明されていないF16の苫小牧上空通過の訓練は認められないこと。
2. 一般市民が参加し易いように市内中心部で苫小牧市民全体を対象とした説明会を開催すること。
3. 前回の回答でも沖縄負担の軽減について沖縄の各自治体から「軽減の実感があるとは言いがたい」との回答を認めています。沖縄の負担軽減になっていない事実を認めること。
4. 事故続きオスプレイの苫小牧上空の飛行は許されません。オスプレイの苫小牧上空の飛行に対しては市として断固抗議して今後は反対していくこと。